



中外製薬



ロシュ グループ

中外製薬株式会社

2025 年 12 月期第 3 四半期決算 説明会

2025 年 10 月 24 日

イベント概要

[企業名]	中外製薬株式会社		
[企業 ID]	4519		
[イベント言語]	JPN		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2025 年 12 月期第 3 四半期決算 説明会		
[決算期]	2025 年度 第 3 四半期		
[日程]	2025 年 10 月 24 日		
[ページ数]	39		
[時間]	18:00 – 19:02 (合計：62 分、登壇：32 分、質疑応答：30 分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[会場面積]			
[出席人数]			
[登壇者]	5 名		
	代表取締役社長 CEO	奥田 修 (以下、奥田)	
	取締役 上席執行役員 CFO	谷口 岩昭 (以下、谷口)	

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



上席執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長

草野 司 (以下、草野)

営業本部長

高野 淳一 (以下、高野)

広報 IR 部長

宮田 香絵 (以下、宮田)

[アナリスト名]*

JP モルガン証券

若尾 正示

モルガン・スタンレーMUFG 証券

村岡 真一郎

シティグループ証券

山口 秀丸

SMBC 日興証券

和田 浩志

UBS 証券

酒井 文義

BofA 証券

豆ヶ野 剛一

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



登壇

宮田：本日はご多用の中、2025 年 12 月期第 3 四半期決算説明会へご出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、本日の進行を担当します、広報 IR 部の宮田です。よろしくお願いいたします。

Agenda



01	2025年第3四半期の総括	代表取締役社長 CEO 奥田 修
02	開発パイプラインの状況	上席執行役員 プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長 草野 司
03	2025年第3四半期 連結決算(Core)概要	取締役 上席執行役員 CFO 谷口 岩昭

3

本日は、Zoom ウェビナーを用いて実施いたします。プレゼン資料 3 ページ目にお示ししている Agenda の内容に沿って、ご説明申し上げます。

本説明会は日本語で開催しますが、英語での同時通訳音声も配信しております。ご視聴されたい言語の選択については、画面下の通訳マークをクリックしていただき、日本語あるいは英語をご選択ください。ご質問は、プレゼンテーションが全て終了した後、まとめてお受けいたします。Q&A は 30 分を想定しております。

なお、プレゼンテーション中は皆様の音声はミュートとなっておりますので、ご了承ください。

それでは、奥田より、2025 年第 3 四半期の総括についてご説明申し上げます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



3

Financial Overview

- 国内外の製商品売上高がともに堅調に推移し、増収増益の決算
- 順調な進捗を踏まえて、通期予想の達成を見込む

Core実績 【億円】	2024年 1-9月 実績	2025年 1-9月 実績	対前同 増減		2025年	
					1-12月 予想	進捗率
売上収益	8,685	9,116	+431	+5.0%	11,900	76.6%
国内製商品売上高	3,317	3,437	+120	+3.6%	4,625	74.3%
海外製商品売上高	4,187	4,509	+322	+7.7%	5,555	81.2%
その他の売上収益	1,182	1,171	△11	△0.9%	1,720	68.1%
営業利益	4,266	4,505	+239	+5.6%	5,700	79.0%
営業利益率	49.1%	49.4%	+0.3pts	-	47.9%	-
四半期利益	3,013	3,200	+187	+6.2%	4,100	78.0%
EPS (円)	183.09	194.44	+11.35	+6.2%	250.00	77.8%

5

奥田：社長の奥田でございます。私からは 2025 年第 3 四半期の業績を総括いたします。

お手元のスライド 5 ページをご覧ください。

2025 年第 3 四半期の業績は、国内外の製商品売上高が堅調に推移しまして、増収増益の決算でありました。対前同で売上収益はプラス 5.0%、営業利益はプラス 5.6%、四半期利益はプラス 6.2% の増収増益となりました。

第 3 四半期までの順調な進捗を踏まえまして、通期予想の達成を見込んでおります。

売上収益の詳細につきましては、次のスライドで説明します。

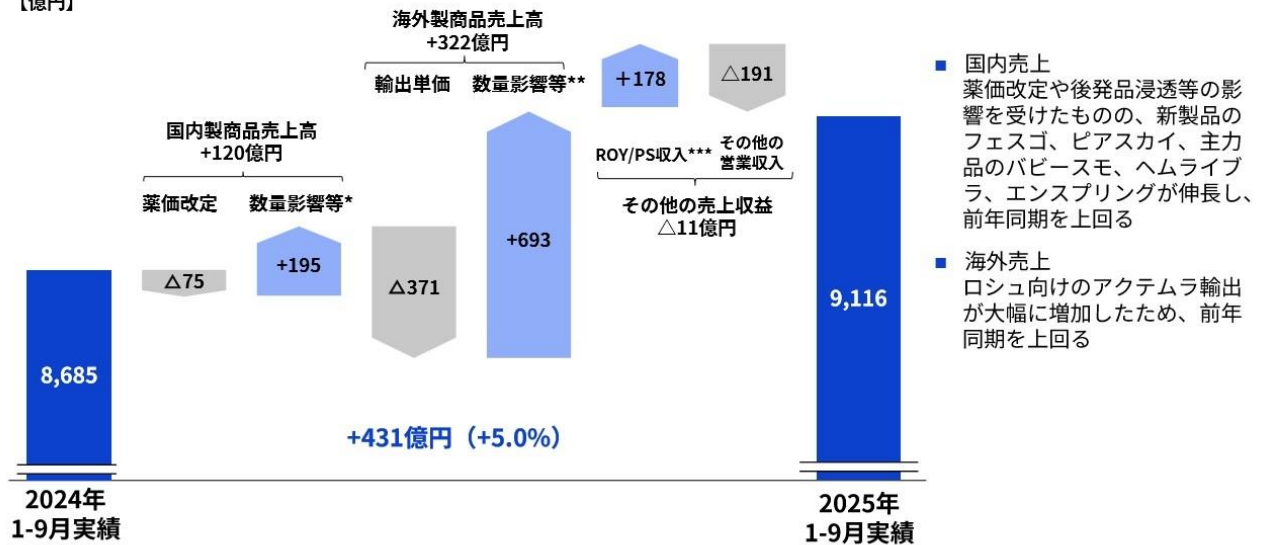
サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

Topline Overview

【億円】



* 後発品浸透によるマイナス影響含む **後発品浸透によるマイナス影響、為替によるプラス影響（259億円）含む ***ロイヤルティ及びプロフィットシェア収入

6

昨年同期と比較しました売上収益は、全体で 431 億円の増収、プラス 5.0%の成長をいたしました。内訳を左から順に説明いたします。

国内は、薬価改定や後発品浸透等のマイナス影響を受けた一方で、新製品のフェスゴ、ピアスカイ、主力品のバビースモ、ヘムライブラ、エンスプリングが伸長し、120 億円の増収となりました。

海外は、輸出単価低下の影響があったものの、輸出数量や為替影響等による増加が大きく上回り、322 億円の増収となりました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

主な自社創製品の短中期の見通し

- ヘムライブラは引き続き成長、アクテムラはバイオシミラー浸透により売上減少
- 売上ポテンシャルの大きい第三者導出品の好調な進展により、短中期の成長を牽引

ヘムライブラ ・ 120カ国以上で承認取得、30,000人以上に投与 ・ Internationalが成長を牽引。日米欧についても依然として成長過程にある ・ 利便性向上に向けオートインジェクター開発中	アクテムラ ・ グローバル（日本含む）： バイオシミラーの浸透スピードが不透明ながら、売上減少の見通し
NEMLUVIO* ・ 海外現地売上上の想定を上回る好調な立ち上がり ・ 米国における新規患者処方 (NBRx) シェア** 結節性痒疹：約37%、アトピー性皮膚炎：約7.3% ・ 全身性強皮症と原因不明の慢性そう痒症の試験開始予定	orforglipron*** ・ 潜在的に大きな肥満症患者層へのリーチ ・ 初の服用時飲食制限なしの経口GLP-1受容体作動薬 ・ リードアウト済の全てのP3試験で主要評価項目を達成 ・ 肥満症は2025年、2型糖尿病は2026年にグローバル申請予定

*Galdermaへ導出 **Galdermaの2025年Q3決算発表に基づくデータ ***Eli Lilly and Companyへ導出 NBRx: New-to-brand prescriptions; 2025年10月10日までの6週間平均

7

続きまして、主な自社創製品の短中期の見通しをご説明いたします。

当社の成長ドライバーであるヘムライブラは、International が成長をけん引するとともに、日米欧についても依然として成長過程にございます。

一方でアクテムラは、日米欧において、バイオシミラーの今後の浸透スピードが不透明ではあるものの、売上が減少していく見通しです。

ガルデルマに導出している新製品の NEMLUVIO につきましては、想定を上回る好調な立ち上がりとなっております。

また、イーライリリーに導出しております orforglipron につきましては、これまで Readout 済の全ての Phase III 試験におきまして主要評価項目を達成しており、肥満症につきましては 25 年、2 型糖尿病につきましては 26 年にグローバル申請を開始予定と公表されております。

これらの売上ポテンシャルの大きい第三者導出品の好調な進展によって、今後の成長をけん引する見通しです。

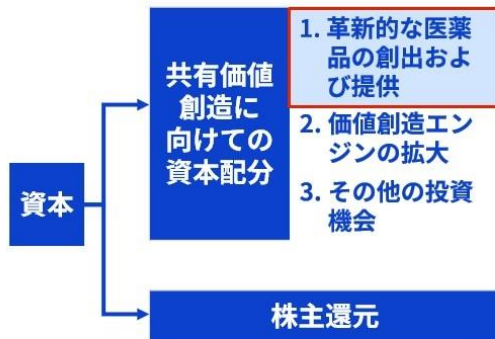
サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

戦略的な投資の加速

- レナリスファーマ社の買収により、米欧で承認済のIgA腎症治療薬sparsentanを獲得
- ファーストインクラス治療薬として2026年の国内申請を目指し、腎領域の開発パイプライン強化と国内売上の持続的成長への貢献を見込む

資本配分に関する基本方針



資本配分に関する基本方針
https://www.chugai-pharm.co.jp/profile/strategy/growth_strategy.html#capital
 *レニン-アンジオテンシン系

レナリスファーマ社の買収による新たなIgA腎症治療薬の獲得

- 日本、韓国、台湾におけるsparsentanの独占的な開発・販売権の取得による腎領域の強化
- 取得価額：
クロージング対価（150億円＋株式譲渡契約に基づく価格調整を反映した金額）、アーンアウト対価（最大160億円のマイルストーン対価、純売上高に連動する対価）
- 患者さんへの提供価値：
・ エンドセリン/アンジオテンシンII受容体に対する二重拮抗作用を有し、RA系阻害薬を上回る有効性やファーストインクラスの治療薬となることが期待される
・ 日本のドラッグラグ・ドラッグロスの解消

腎領域の後期開発パイプライン

開発品	予定適応症	申請予定年
ガザイバ	ループス腎炎・小児特発性ネフローゼ症候群	2026年
ピアスカイ	非典型溶血性尿毒症症候群	2026年
sefaxersen	IgA腎症	2028年以降

8

続きまして、本日公表いたしましたレナリスファーマ社の買収による、新たなIgA腎症治療薬sparsentanの獲得についてご紹介いたします。

当社は患者さんにとって真に価値のあるソリューションを提供し、株主に安定的なリターンを提供できるよう、資本配分に関する基本方針を策定しております。革新的な医薬品の提供に向けた戦略的な投資として、このたびロシュ以外の第三者から導入を実施いたしました。

sparsentanは米欧で既に承認、上市済みの製品であり、レナリスファーマ社がプレスリリースしておりますとおり、国内第Ⅲ相臨床試験におきまして、全評価対象症例の主要評価項目、データの収集は完了しております。現時点では、最速で2026年の承認申請を目指しており、国内売上の持続的な成長に貢献することを期待しております。

ファーストインクラスの治療薬を1日でも早く患者さんに届けられるよう、努めてまいります。

私からの説明は以上でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

3Qトピックス (1/3)

2025年10月24日現在

発売	ピアスカイ	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2025年10月（台湾）
承認	テセントリク	再発または難治性の節外性NK/T細胞リンパ腫・鼻型	2025年9月（日本）
	セルセプト	難治性のネフローゼ症候群（公知申請）	2025年9月（日本）
申請	アバスチン	神経線維腫症II型	2025年8月（日本）
試験開始	glofitamab	再発または難治性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫	国内第II相（2025年8月）
		再発または難治性マントル細胞リンパ腫	国内第II相（2025年8月）
	afimkibart	クローン病	第III相（2025年9月）
	divarasib	非小細胞肺癌（一次治療）	第Ib/II相（2025年10月）
パイプライン 削除	ピアスカイ	鎌状赤血球症：開発中止	
	チラゴルマブ	非小細胞肺癌（SKYSCRAPER-03試験）：開発中止	
		肝細胞がん（SKYSCRAPER-14試験）：開発中止	

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）

10

草野：プロジェクト・ライフサイクルマネジメントユニット長の草野でございます。

お手元のスライド 10 ページをご覧ください。こちらが第 3 四半期のトピックスでございます。上からご説明申し上げます。

自社品のピアスカイは、PNH を対象として、台湾で発売されました。

承認は、ロシュ品二つです。テセントリクは、希少な疾病である再発または難治性の節外性 NK/T 細胞リンパ腫・鼻型に対して、免疫チェックポイント阻害剤として初めて国内で承認を取得いたしました。セルセプトは、難治性のネフローゼ症候群に対して公知申請に基づく申請を行い、9 月に承認を取得いたしました。

申請については、ロシュ品で 1 件、アバスチンの神経線維腫症 II 型に対して、本年 8 月に申請を行いました。

試験開始は、ロシュ品 4 件です。glofitamab は、再発または難治性のびまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫と、再発または難治性マントル細胞リンパ腫に対して、国内第 II 相試験を開始いたしました。afimkibart は、クローン病に対して Phase III 試験を開始してございます。さらに divarasib は、非小細胞肺癌の一次治療を対象に Phase I b 試験を開始いたしました。

パイプライン除外についてです。ピアスカイの鎌状赤血球症は、海外で実施された臨床試験の結果を受け、ロシュ社が開発を中止したことにより、パイプラインから除外いたしました。チラゴルマブ

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

ブは、SKYSCRAPER-03 および SKYSCRAPER-14 試験の結果を受け、それぞれ非小細胞肺癌、および肝細胞がんに対する開発を中止いたしました。

開発パイプラインの状況

3Qトピックス (2/3)



2025年10月24日現在

Readout	orforglipron*	第III相 ATTAIN-1試験（肥満症）：主要評価項目達成	2025年8月
		第III相 ATTAIN-2試験（肥満または過体重の2型糖尿病）：主要評価項目達成	2025年8月
		第III相 ACHIEVE-J試験（2型糖尿病）：安全に投与できる可能性を示唆	2025年9月
		第III相 ACHIEVE-2試験（2型糖尿病、SGLT-2阻害薬がバゲリカゾンとの比較）：主要評価項目達成	2025年10月
		第III相 ACHIEVE-3試験（2型糖尿病、経口セマグルチドとの比較）：主要評価項目達成	2025年9月
		第III相 ACHIEVE-5試験（インスリン* ルギンで血糖コントロールが不十分な2型糖尿病）：主要評価項目達成	2025年10月
	エンズプリング	第III相 SatraGO-1試験（甲状腺眼症（TED））：主要評価項目未達 第III相 SatraGO-2試験（TED）：主要評価項目達成 ※両試験ともに、非活動性/活動性TEDにおける眼球突出、複視、CAS（臨床活動性スコア）を含む主要な有効性の評価項目についてエンズプリングによる臨床的に意味のある改善が示された	2025年3Q
	ピアスカイ	第IIa相 CROSSWALK-c 試験（鎌状赤血球症）：主要評価項目未達	2025年3Q
	バミキバルト	第III相 SANDCAT試験（非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫（UME））：主要評価項目未達** 第III相 MEERKAT試験（UME）：主要評価項目達成 ※両試験ともにバミキバルトの治療を受けて視力が改善した患者さんの割合は数値的により高かった	2025年3Q
	テセントリク	第III相 IMvigor011試験（筋層浸潤性膀胱がん（アジュバント））：主要評価項目達成	2025年8月
	ギレデストラント酒石酸塩	第III相 evERA試験（ホルモン受容体陽性乳がん[一次～三次治療]）：主要評価項目達成	2025年9月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）*導出先のEli Lilly and Companyが実施

**事前の解析計画として試験結果に対して階層的検定を設定。SANDCAT試験では主要評価項目（バミキバルト1mgとshamの比較）が未達だったため、バミキバルト0.25mgとshamの比較も含めて他の評価項目に関して名目的なP値が低値であっても正式な統計学的有意の主張ができない

11

第3四半期は、自社創製品について多くの Readout がございました。

イーライリリーに導出した orforglipron については、肥満症を対象とした ATTAIN-1 試験、ATTAIN-2 試験において、それぞれ主要評価項目を達成しました。加えて、2 型糖尿病を対象とした ACHIEVE-2 試験、ACHIEVE-3 試験、ACHIEVE-5 試験でも、それぞれ主要評価項目を達成しました。さらに、日本で行われた安全性を評価する ACHIEVE-J 試験では、2 型糖尿病を対象に orforglipron を安全に投与できる可能性が示唆されました。

エンズプリングについては、甲状腺眼症に対する 2 本のグローバル Phase III 試験の結果が得られました。こちらは後ほど詳細をご説明いたします。

ピアスカイの鎌状赤血球症については、先ほどパイプライン削除をお伝えしましたが、海外で行われた第 II 相 CROSSWALK-c 試験において、主要評価項目が未達でした。詳細なデータは今後の学会発表をお待ちください。

続きまして、ロシュ品の Readout です。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



バミキバルトについては、非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫を対象とした、二つのグローバル Phase III 試験の結果が得られました。日本から参加している SANDCAT 試験については、主要評価項目未達であった一方、日本不参加の MEERKAT 試験では主要評価項目が達成されました。両試験とも、バミキバルトの治療を受けて視力が改善した患者さんの割合は、数値的により高い結果でございました。これらの結果を受け、規制当局と申請承認に向けて協議予定でございます。

テセントリクとギレドストラント酒石酸塩については、それぞれお示しの試験で主要評価項目を達成いたしました。

開発パイプラインの状況

3Qトピックス (3/3)



2025年10月24日現在

学会発表	orforglipron*	European Association for the Study of Diabetes (EASD) : 第III相 ATTAIN-1試験 (肥満症)	2025年9月
	エンズプリング	American Society of Ophthalmic Plastic and Reconstructive Surgery (ASOPRS) : 第III相 SatraGO-1試験、SatraGO-2試験 (甲状腺眼症)	2025年10月
	アレセンサ	European Society for Medical Oncology (ESMO) : 第III相 ALEX試験 (非小細胞肺癌、OS最終データ)、第III相 ALINA試験 (非小細胞肺癌 (アジュバント)、DFS 3年データ)	2025年10月
	trontinemab	Alzheimer's Association International Conference (AAIC) : アルツハイマー病を対象とした第Ib/Ia相 Brainshuttle AD試験のデータ	2025年7月
	バビースモ	European Society of Retina Specialists (EURETINA) : 第III相 AVONELLE-X試験 (中心窩下脈絡膜新生血管を伴う加齢黄斑変性 (nAMD)、4年データ)、第IIIb/IV相 SALWEEN試験 (nAMD) のうちポリリーブ状脈絡膜血管症のアジア人、1年データ)	2025年9月
	バミキバルト	American Academy of Ophthalmology (AAO) : 第III相 SANDCAT試験 (UME)	2025年10月
	テセントリク	ESMO : 第III相 IMvigor011試験 (筋層浸潤性膀胱がん (アジュバント))	2025年10月
	ギレドストラント酒石酸塩	ESMO : 第III相 evERA試験 (ホルモン受容体陽性乳がん[一次〜三次治療])	2025年10月
製品・技術の導入	ロシュ	持続性GLP-1/GIP受容体作動薬CT-388の導入	—
	Rani Therapeutics	RaniPill技術を用いた経口製剤の開発および商業化に関するライセンス契約	2025年10月
	レナリスファーマ	買収によるETAR/AT1R 二重拮抗薬sparsentanの日本、韓国、台湾における独占的開発・販売権取得	2025年10月

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシュ導入品（日本開発販売）*導出先のEli Lilly and Companyが実施
OS：全生存期間、DFS：無増悪生存期間

12

学会発表については、自社創製品三つ、ロシュ品五つでございます。

これまでにご紹介した試験結果に加えて、アレセンサの非小細胞肺癌を対象とした ALEX 試験の最終 OS データと、アジュバント療法に対する ALINA 試験において、良好な結果を発表してございます。

ロシュ品につきましては、いずれもニュースリリースにてご案内済みのものでございます。

次に製品・技術の導入については、ロシュより、持続性 GLP-1/GIP 受容体作動薬である CT-388 を導入する契約を締結いたしました。また、先日ニュースリリースをいたしました、Rani

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



Therapeutics 社と RaniPill 技術を用いた経口製剤の開発および商業化に関するライセンス契約を締結いたしました。

さらに、先ほど奥田から説明のとおり、レナリス社の買収により、IgA 腎症に対する開発品 sparsentan の開発・販売権を取得いたします。後ほど、sparsentan の MoA 等、サイエンス面に関して詳細をご説明申し上げます。

開発パイプラインの状況

2025年 主要なR&Dイベント



2025年10月24日現在

	開発品（製品）名	予定適応症 / 試験名	進捗状況
承認 予定品目	エレピジス	デュシェンヌ型筋ジストロフィー（歩行可能）	承認
	バビースモ	網膜色素線条	承認
P3/ビタル試験 Readout	ピアスカイ	COMMUTE-a試験*：非典型型溶血性尿毒症症候群（aHUS）	
	エンズプリング	SatraGO-1試験：甲状腺眼症	主要評価項目未達**
		SatraGO-2試験：甲状腺眼症	主要評価項目達成**
	ルンスミオ+ポリビー	SUNMO試験：再発または難治性のアグレッシブB細胞性非ホジキンリンパ腫	主要評価項目達成
	ルンスミオ	CELESTIMO試験：濾胞性リンパ腫（二次治療）	2026年予定
	ギレデストラント酒石酸塩	persevERA試験：ホルモン受容体陽性乳がん（一次治療）	2026年予定
		evERA試験：ホルモン受容体陽性乳がん（一次治療～三次治療）	主要評価項目達成
	バミキバルト	SANDCAT試験：非感染性ぶどう膜炎に伴う黄斑浮腫（UME）	主要評価項目未達**
P2試験 Readout		MEERKAT試験：UME	主要評価項目達成**
	ガザイバ	INShore試験：小児突発性ネフローゼ症候群	
	GYM329+エブリスディ	MANATEE試験：脊髄性筋萎縮症（SMA）	2026年予定
	GYM329	MANOEUVRE試験：顔面肩甲上腕型筋ジストロフィー（FSHD）	2026年予定
	NXT007	血友病A	PoC確認／ P3移行を決定***
P1/2試験 Readout	trontinemab	CROSSWALK-c試験：鎌状赤血球症（SCD）	主要評価項目未達
試験開始		Brainshuttle AD試験：アルツハイマー病	P3移行を決定
	GYM329	肥満症（P2試験）	試験開始

オレンジ：自社創製品（グローバル開発）、ブルー：ロシエ導入品（日本開発販売）

*成人および青年患者を対象 **規制当局と承認申請に向けて協議予定 ***3本のP3試験を2026年に開始予定（第VIII因子製剤との比較、ヘムライブラとの比較、小児を対象）

下線・太字：2025年7月24日からの変更点

13

2025 年の主要な R&D イベントです。太字下線部分が前回の決算からの変更点でございます。

先ほどお伝えさせていただきましたが、エンズプリング、ギレデストラント酒石酸塩、バミキバルト、ピアスカイの各試験における結果が得られてございます。

ルンスミオの CELESTIMO 試験およびギレデストラント酒石酸塩の persevERA 試験は、2026 年の Readout 予定に変更となりました。

また、GYM329 の SMA および FSHD に対する各試験については、主に競合上の理由等を考慮し、データの発表は来年上期を予定してございます。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

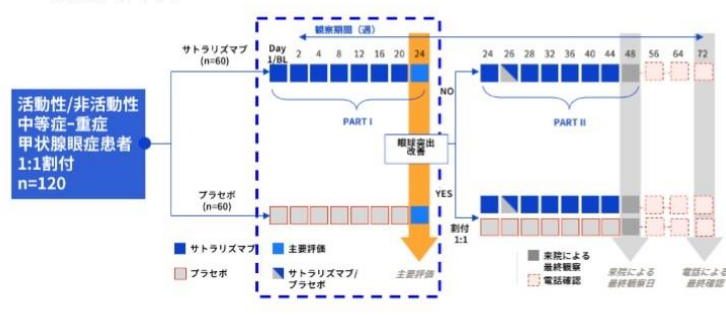
メールアドレス support@scriptsasia.com



エンズプリング：中等症-重症甲状腺眼症に対する2本の第III相試験

- 引き続き試験結果の解析を進め、承認申請に向けて当局と協議する予定
- 4週1回の皮下投与による利便性と良好な安全性プロファイルにより甲状腺眼症（TED）治療への貢献を期待

<試験デザイン>



<主要解析結果>

24週時点での活動性TED患者における
眼球突出の改善割合



	試験全体	うち活動性
SatraGO-1	n=131	n=101
SatraGO-2	n=127	n=97

主要解析の
対象

- SatraGO-1/GO-2試験は、中等症-重症TED患者を対象として、サトラリズマブ（製品名：エンズプリング）をプラセボと比較した試験であり、既存の非臨床及び臨床データに基づくIL-6阻害の有用性を検証した。
- 主要評価項目である24週時点での活動性TED患者における眼球突出の改善割合において、SatraGO-1試験は統計学的有意差が認められず、SatraGO-2試験では統計学的有意差を示す結果であった。両試験において、サトラリズマブは一貫した有効性の傾向を示していた。
- TEDにおけるサトラリズマブの安全性データは、NMOSDで確立されたデータと同様であり、新たな安全性の懸念は認められず、忍容性は良好であった。

14

続いて、エンズプリングの甲状腺眼症に対する Phase III 試験の結果でございます。本結果は、先般の米国眼科形成再建外科学会にて発表されてございます。

まず、試験デザインでございます。SatraGO-1/SatraGO-2 試験は、中等症から重症の甲状腺眼症患者を対象として、エンズプリングをプラセボと比較した試験でございます。既存の非臨床および臨床データに基づく IL-6 阻害の有用性が検証されてございます。

試験には、活動性および非活動性の甲状腺眼症患者さんが登録され、1対1の割合でエンズプリング群またはプラセボ群に割付を行いました。

今回結果が得られたのは、オレンジ色の矢印が示す 24 週時点において、試験に登録された方のうち、活動性の甲状腺眼症患者さんを対象に、眼球突出の改善割合を評価いたしました。結果は、SatraGO-1 試験での改善率はエンズプリング群で 49%に対し、プラセボ群で 31%、統計学的有意差が得られませんでした。一方、SatraGO-2 試験では、エンズプリング群で 53%に対して、プラセボ群で 23%であり、統計学的有意差を示す結果となりました。

また、本スライドにはお示ししていませんが、両試験とも活動性、非活動性の甲状腺眼症における眼球突出、一つのものが二重に見える複視、臨床活動性スコアを含む主要な有効性の評価項目において、エンズプリングによる臨床的に意味のある改善が示されました。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

甲状腺眼症におけるエンスプリングの安全性データは、既に上市されている NMOSD で確立されたデータと同様であり、新たな安全性の懸念は認められず、忍容性は良好でございました。

引き続き本試験結果の解析を進め、申請承認に向けて当局と協議する予定でございます。

エンスプリングは、4週に1回の皮下投与による利便性と良好な安全性プロファイルを有し、甲状腺眼症治療への貢献を期待してございます。

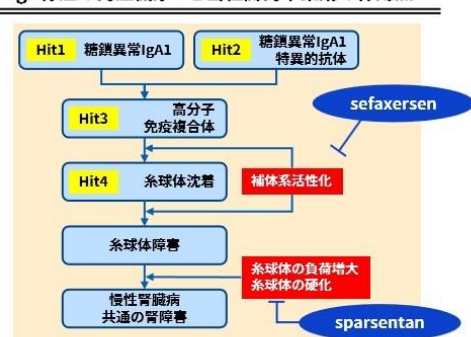
開発パイプラインの状況

sparsentan (エンドセリン/アンジオテンシンII受容体二重拮抗薬)



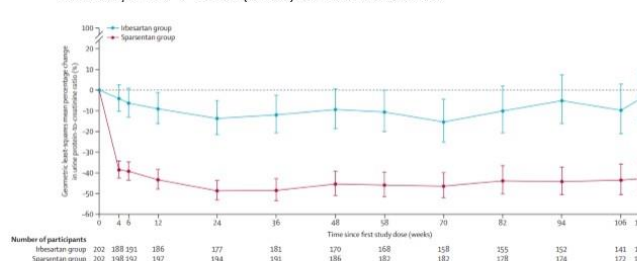
- sparsentanはIgA腎症に対する有効性が海外第III相試験で評価され¹⁾、米欧で承認済み。国内で小規模の第III相臨床試験を実施中であり、ファーストインクラスの治療薬となる可能性がある。
- 本剤はRA系²⁾阻害に加え、エンドセリン経路を同時に阻害することで、従来のRA系阻害薬と同様に1日1回の使用でありながら、より強力な尿蛋白減少効果が期待されている

IgA腎症の発症機序³⁾と当社開発中薬剤の作用点



海外第III相臨床試験(PROTECT study)結果

sparsentanまたはirbesartan⁴⁾を投与して、ベースラインから投与110週後までの尿蛋白/クレアチニン比(UPCR)の平均変化量を観察



- sparsentanは慢性腎臓病共通の腎障害への有効性が期待される
- 補体系活性化による炎症を抑制するsefaxersenと本剤で、様々な病期のIgA腎症患者さんへ治療提供が可能に

- 主要評価項目：36週時点でsparsentan群はirbesartan群と比較してUPCRの有意な低下を示し、ベースラインからのUPCR変化は-49.8%⁵⁾
- 薬剤に起因する有害事象は、sparsentanとirbesartanの両群間で同程度

1) Rovin *et al.* Lancet. (2023), 2) レニン-アンジオテンシン系, 3) 日本腎臓学会誌2015; 57(8)を要見, 4) RA系阻害薬の一つでアンジオテンシン受容体拮抗薬, 5) Heerspink *et al.* Lancet. (2023)

15

続きまして、本日発表いたしました、レナリスファーマ社の買収により取得する sparsentan についてでございます。

sparsentan は IgA 腎症に対する有効性が海外第III相試験で評価され、アメリカおよび欧州で承認済みの医薬品です。日本国内では、小規模の第III相試験を実施中であり、ファーストインクラスの治療薬となる見込みの品目です。

本剤は、レニン-アンジオテンシン系阻害に加え、エンドセリン経路を同時に阻害することで、1剤でデュアル阻害剤の効果があるため、レニン-アンジオテンシン系阻害剤との併用なしに、1剤で強力な尿蛋白減少効果があることが示されてございます。

左の図を用いて、IgA 腎症の発生機序をご説明いたします。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



まず、遺伝的、環境的な複合的な要因により、糖鎖異常 IgA1 が産生されます。ヒトの免疫システムは、この糖鎖異常 IgA1 を異物と認識し、抗 IgA1/IgG 抗体を産生いたします。これらの免疫複合体をけん制し、その後、糸球体への沈着、補体活性化等による糸球体の傷害が起こります。傷害された糸球体では糸球体の負荷が増大し、硬化が進んでいきます。

sparsentan は、二重拮抗作用により血圧上昇や血管の収縮を抑制し、腎炎の抑制、腎臓の負担軽減および腎機能の保護に作用していると考えられています。

同じく IgA 腎症に対して、弊社で開発中の sefaxersen は補体を抑制するため、IgA 腎症に対する異なる MoA を持つ薬剤でございます。

sparsentan と sefaxersen の二つの薬剤の開発を通して、IgA 腎症の複雑な病態を改善すること、また幅広い病気の患者さんの病態の改善に貢献できることを期待してございます。

続いて右側のグラフにおいて、海外で実施された第Ⅲ相試験の結果をご説明いたします。

本試験において、sparsentan または対照群としてレニン-アンジオテンシン系阻害剤の irbesartan を 110 週間、1 日 1 回経口投与されました。主要評価項目は、投与開始 36 週目の尿蛋白/クレアチニン比の、ベースラインからの平均変化量でございました。

irbesartan 群では平均変化量が 15.1%であったのに対し、sparsentan 群では 49.8%であり、sparsentan は irbesartan 群と比較して有意な低下を示しました。また、有害事象は 2 群間で同程度でございました。

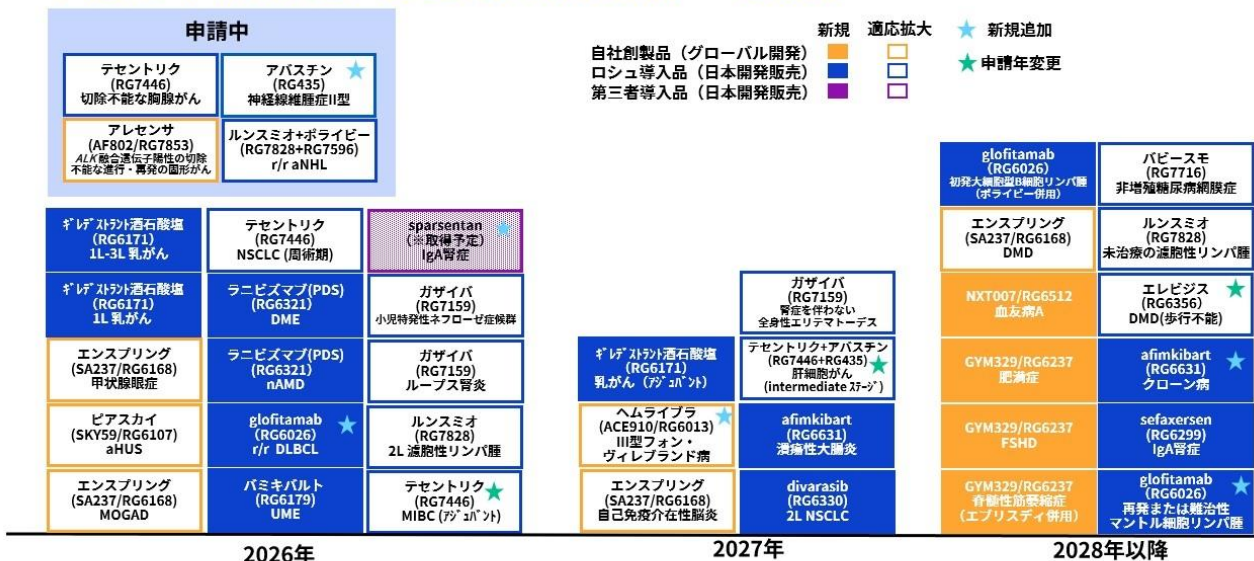
サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

今後の申請予定 (P2以降開発品・製品)

2025年10月24日現在



最後に、今後の申請予定でございます。

水色の星が付いているものが、新規に追加したプロジェクトでございます。

今回より新たな区分として、第三者導入品を追加しており、紫色で示してございます。先ほどご紹介した sparsentan は、来年 2026 年の申請を見込んでおります。

このあとに続くスライドは、参考資料として添付してございます。

私からの発表は以上でございます。

宮田：最後に、谷口より、2025 年第 3 四半期連結決算 (Core) 概要についてご説明申し上げます。

損益 1-9月 前年同期比

【億円】	2024年	2025年	増減	
売上収益	8,685	9,116	+431	+5.0%
製商品売上高	7,503	7,946	+443	+5.9%
国内	3,317	3,437	+120	+3.6%
海外	4,187	4,509	+322	+7.7%
その他の売上収益	1,182	1,171	△11	△0.9%
売上原価	△2,441	△2,633	△192	+7.9%
製商品原価率	32.5%	33.1%	+0.6pts	-
研究開発費	△1,279	△1,288	△9	+0.7%
販売費及び一般管理費	△725	△694	+31	△4.3%
その他の営業収益（費用）	24	4	△20	△83.3%
営業利益	4,266	4,505	+239	+5.6%
営業利益率	49.1%	49.4%	+0.3pts	-
金融収支等	△11	△19	△8	+72.7%
法人所得税	△1,242	△1,286	△44	+3.5%
四半期利益	3,013	3,200	+187	+6.2%
EPS（円）	183.09	194.44	+11.35	+6.2%

- 国内
薬価改定や後発品浸透による減少影響を受けたものの、新製品や主力品の伸長により増加
- 海外
主力品のロシユ向け輸出の伸長により増加
- その他の売上収益
ヘムライブラに関する収入が増加した一方、一時金収入が減少
- 売上原価
製品別売上構成比の変化等により、製商品原価率が上昇
- 研究開発費
創薬・早期開発への投資や開発プロジェクトの進展等に伴い増加
- 販売費及び一般管理費
諸経費等が減少

22

谷口：それでは、内容についてご説明申し上げます。

まず第3四半期の売上収益は、前年同期比431億円、率にして5.0%プラスの9,116億円、Core営業利益も239億円、5.6%プラスの4,505億円となりましたことを、最初にお伝えさせていただきます。

まず、売上収益の状況についてご説明させていただきます。

売上収益のうち製商品売上高は、7,946億円、前年同期比443億円、5.9%プラスの増収となっております。

地域別に見ますと、まず国内が3,437億円、前年同期比120億円、3.6%プラスの増収となっております。こちらは、今、新製品や主力品が非常に好調に進捗しております。薬価改定の影響や後発品の影響、浸透をしっかりと吸収した形となっております。

海外は、引き続きロシユ向けの主力品の輸出が好調で、4,509億円と、前年同期比322億円、7.7%プラスの増収となっております。

ロイヤルティ等によるその他の売上収益、ロシユからのヘムライブラのロイヤルティ収入が引き続き増加しております。一方で、第三者からの一時金収入が昨年と比較して減少したことから、1,171億円と、前年同期比とほぼ横ばい、11億円のマイナスとなっております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

次に、費用項目に移ります。

売上原価は 2,633 億円と、前年同期比 192 億円、7.9%の増加となりました。金額ベースでの増加は、製商品売上高が増加し、それに比例して増加していることになっております。なお、製商品の原価率ですが、比較的原価の高いアクテムラの構成比が前年より若干高まったことから、前年同期比 0.6 ポイント上昇し、33.1%となっています。

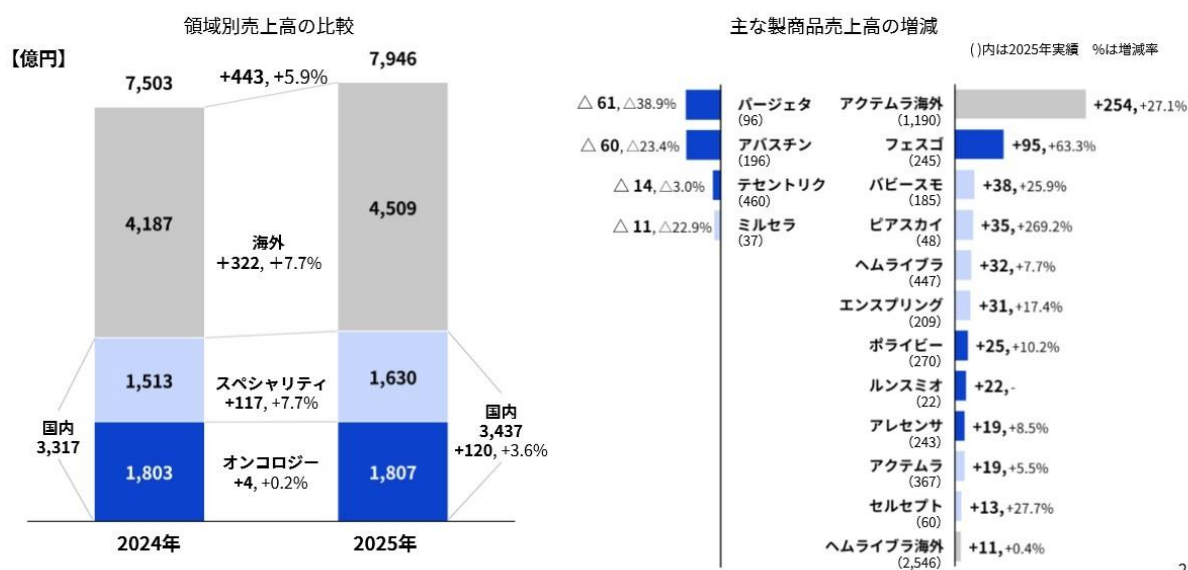
販管費については、物価高、人件費上昇の影響を受ける中で効率化努力を進め、前年同期比 31 億円低下となりました。研究開発費は、創薬研究および早期開発プロジェクトが順調に進捗していることを反映し、前年同期比 9 億円の増加となっております。その他の営業収益のところは、製品譲渡益等が若干減少し、前年同期比 20 億円の減少となっております。

これらを通算し、営業利益は、先ほど申し上げましたが、前年同期から 239 億円増加の 4,505 億円となり、営業利益率も 49.4%と、前年同期比 0.3 ポイント上昇しております。

税引後の当期利益は 3,200 億円と、187 億円、6.2%の増加となっております。

2025年第3四半期 連結決算(Core)概要

製商品売上高 1-9月 前年同期比



続きまして、製商品売上増減の内訳でございます。

まず一番下の濃い青色、国内のオンコロジー領域でございますが、1,807 億円と、前年同期比 4 億円、0.2%の増収となっております。内容的には、後発品浸透の影響を受けアバスチンが引き続き減少した一方で、新製品フェスゴの売上が置き換え対象となっておりますパージェタの減少を大きく

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



上回る形で、極めて順調に増加しております。また、新製品ルンスミオも好調な立ち上がりとなっております。

スペシャリティ領域は 1,630 億円と、前年同期比 117 億円、7.7%の増収となりました。全般的に薬価改定影響も受けましたが、主力品ヘムライブラ、アクテムラ、エンスプリング、バビースモ、いずれも好調でございます。堅調にプラスが出ております。加えて、新製品のピアスカイも去年に引き続きまして、今期も勢いを維持して、順調に売上を伸ばしております。

海外は、先ほどもご説明しましたが、とりわけアクテムラが 322 億円と、前年同期比で 7.7%の増収となっております。ヘムライブラも 11 億円とプラスとなっております。

2025年第3四半期 連結決算(Core)概要

ヘムライブラおよびアクテムラ ロシュ向け輸出



【億円】

<ヘムライブラ>



■ロシュ向け輸出

ヘムライブラ、アクテムラ共にGlobalでの好調な販売進捗を受け、通期予想から上振れ見込

<アクテムラ>



24

ここで、第2クォーターもお話したヘムライブラとアクテムラ、ロシュ向け輸出の状況でございます。

ヘムライブラは、6月下旬に売上計上を予定していました出荷分約 380 億円が、納品手続上の遅延から7月に遅延するという話は前回申し上げましたが、これがきちんと計上されております。第3四半期累計では、前年同期比 4 億円のプラスとなっております。現時点での年末に向けた出荷スケジュール、出荷予定を前提とすると、年間累計では通期予想の 3,186 億円を上回る、前は 100 億円以上と申し上げましたが、同じような 100 億円以上を上回る売上高を想定しております。

サポート

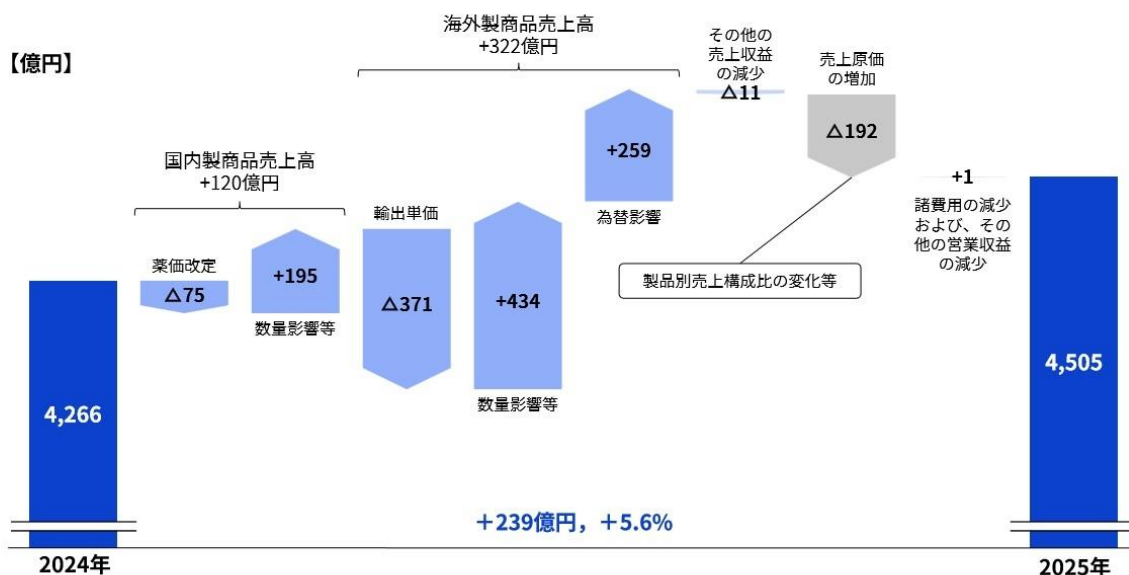
日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



アクテムラは、バイオシミラーの浸透が想定よりも引き続き遅延した結果、第3クォーター時点で1,152億円と、通期予想の1,230億円にかなり迫っております。こちら現状の出荷予定、スケジュールから判断して、年間累計では通期予想売上1,230億円を、今のところ200億円以上上回る売上高を想定しております。

2025年第3四半期 連結決算(Core)概要

営業利益 1-9月 増減



25

営業利益の増減の9月までのブレイクダウンでございます。

左から、まず国内の要素でございますが、国内売上高は120億円増加しました。薬価改定影響75億円あったわけですが、これを凌駕する形で、数量、ボリュームが大きく伸びております。190億円が数量影響でございまして、薬価影響75億円を相殺した形になっております。

海外が売上高全体で322億円ですが、新興国での売上拡大の影響と、輸出単価がこれまで同様下がっておりますが、数量のほうが大きく伸びております。さらにこれに為替の影響259億円が加わって、全体として322億円の売上増加となっております。

ここからあと、原価は製商品の売上高が上がっていることに比例して、売上原価も増加しております、192億円です。これが主だった営業利益239億円の構成要素の増減の内訳でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



損益の構成 四半期推移



■前年同四半期（2024年3Q）比

製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により改善
研究開発費は主に開発一括中止に関わる費用等の影響に伴い減少
販売費及び一般管理費は主に諸経費等が減少
その他の営業収益（費用）は前年同四半期並み
営業利益 +148億円, +9.0%

■前四半期（2025年2Q）比

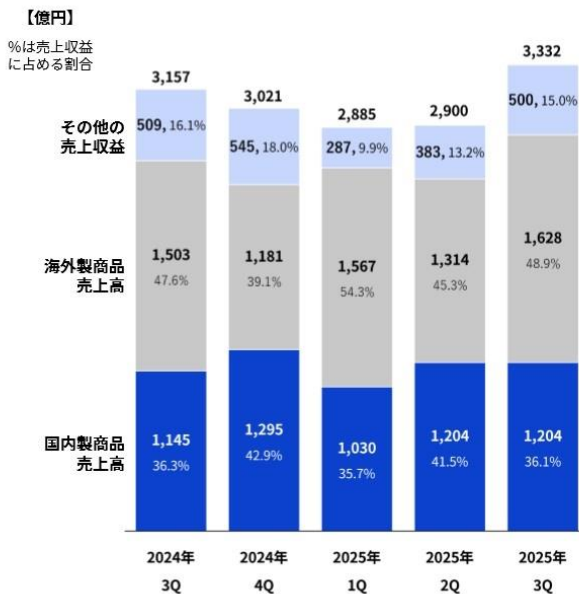
製商品原価率は製品別売上構成比の変化等により改善
研究開発費は主に開発一括中止に関わる費用等の影響に伴い減少
販売費及び一般管理費は主に諸経費等が減少
その他の営業収益（費用）は前四半期並み
営業利益 +460億円, +34.7%

26

ここから、3 カ月単位、四半期単位の売上高、利益、各費用項目の推移でございます。

これは、四半期単位で見るとどうしてもでこばこがあります。国内においては、第4クォーターが比較的売上が大きくなるなど、海外においては輸出のタイミングが必ずしも定期的ではなく不定期であったり、こういった要因が大きく反映されているのではないかと考えております。

売上収益の構成 四半期推移



■前年同四半期（2024年3Q）比

国内は新製品や主力品の好調な推移により増加
海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが増加
その他の売上収益は主にヘムライブラのロイヤルティ収入が増加した一方、一時金収入が減少

■前四半期（2025年2Q）比

国内は前四半期並み
海外は出荷タイミングの影響によりヘムライブラが増加
その他の売上収益は主にヘムライブラのロイヤルティ収入が増加

27

次が、売上の四半期ごと、3カ月単位でのブレイクダウンです。

こちらもそういうことで、季節要因等を反映し、でこぼこがあることがご確認いただけるのではないかと思います。

2025年第3四半期 連結決算(Core)概要

損益 1-9月 予想比



【億円】	実績	期初予想	進捗率	2024年
	2025年 1-9月	2025年 1-12月		進捗率*
売上収益	9,116	11,900	76.6%	74.2%
製商品売上高	7,946	10,180	78.1%	75.2%
国内	3,437	4,625	74.3%	71.9%
海外	4,509	5,555	81.2%	78.0%
その他の売上収益	1,171	1,720	68.1%	68.4%
売上原価	△ 2,633	△ 3,410	77.2%	72.2%
製商品原価率	33.1%	33.5%	-	-
研究開発費	△ 1,288	△ 1,780	72.4%	72.3%
販売費及び一般管理費	△ 694	△ 1,010	68.7%	70.9%
その他の営業収益（費用）	4	-	-	88.9%
営業利益	4,505	5,700	79.0%	76.7%
営業利益率	49.4%	47.9%	-	-
当期（四半期）利益	3,200	4,100	78.0%	75.9%
EPS（円）	194.44	250.00	77.8%	75.9%

*2024年通期実績に対する2024年 1-9月実績の進捗率

- 国内
主力品や新製品の好調な進捗
- 海外
ヘムライブラおよびアクテムラのロシュ向け輸出が
想定に比べ好調な進捗
- その他の売上収益
概ね想定通りの進捗
- 売上原価
1-9月の製商品売上原価率は概ね想定通り
- 研究開発費
概ね想定通りの進捗
- 販売費及び一般管理費
概ね想定通りの進捗

28

こちらは、損益、9月累計での、現時点での期初予想に対する進捗状況でございます。

第3四半期ですから75%の進捗が一般的には平均となりますが、これに対して売上も利益もかなり順調に推移していることがお分かりいただけるかと思います。

昨年24年の9月末時点の進捗率に比べても、売上は2.4%プラスですし、営業利益も2.3%のプラスが出ておりますので、昨年に比べても順調に推移していることがお分かりいただけるかと思います。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



製商品売上高 1-9月 予想比



【億円】	実績	期初予想		2024年
	2025年 1-9月	2025年 1-12月	進捗率	進捗率*
製商品売上高	7,946	10,180	78.1%	75.2%
国内	3,437	4,625	74.3%	71.9%
オンコロジー領域	1,807	2,392	75.5%	72.8%
テセントリク	460	620	74.2%	72.5%
▶ ポライビー	270	358	75.4%	71.8%
アレセンサ	243	340	71.5%	72.3%
▶ フェスゴ	245	316	77.5%	63.8%
アバスチン	196	255	76.9%	75.7%
カドサイラ	119	166	71.7%	72.6%
▶ パージェタ	96	119	80.7%	78.5%
ルンスミオ	22	37	59.5%	-
▶ ハーセプチン	10	14	71.4%	79.2%
▶ Foundation Medicine	60	71	84.5%	76.3%
その他	85	96	88.5%	75.6%

▶ 想定を上回っている
▶ 想定を下回っている

*2024年通期実績に対する2024年1-9月実績の進捗率

【億円】	実績	期初予想		2024年
	2025年 1-9月	2025年 1-12月	進捗率	進捗率*
スペシャルティ領域	1,630	2,233	73.0%	70.9%
▶ ヘムライブラ	447	594	75.3%	70.3%
アクテムラ	367	500	73.4%	72.5%
▶ エンスプリング	209	260	80.4%	72.1%
▶ バビースモ	185	235	78.7%	68.4%
エブリスディ	120	159	75.5%	71.1%
▶ セルセプト	60	58	103.4%	69.1%
ミルセラ	37	50	74.0%	73.8%
▶ ピアスカイ	48	44	109.1%	50.0%
▶ その他	156	332	47.0%	71.2%
海外	4,509	5,555	81.2%	78.0%
▶ ヘムライブラ	2,546	3,242	78.5%	82.4%
▶ アクテムラ	1,190	1,276	93.3%	71.0%
▶ アレセンサ	460	670	68.7%	74.4%
エンスプリング	86	126	68.3%	63.8%
▶ シグマート	67	78	85.9%	76.3%
▶ ノイトロジン	67	65	103.1%	77.9%
その他	92	98	93.9%	82.1%

29

こちらは、さらに細かい製品ごとの進捗率の状況でございます。

75%を基準にして、想定よりもかなり上回っているものは上向きの青い矢印、逆に想定を若干下回っているものは下向きのグレーの矢印で記載しております。ご参考にしていただければと思います。

為替影響額 1-9月



	対2024年 実績レート 【C】 vs. 【A】	対2025年 想定レート 【C】 vs. 【B】		2024年 実績レート*2 1-9月 【A】	2025年 想定レート 1-9月 【B】	2025年 実績レート*2 1-9月 【C】	2025年 期中市場 平均レート*3 1-9月	2025年 想定レート 通期
売上収益	+347億円	+2億円	1CHF	160.43円	171.36円	171.62円	175.95円	171.00円
製商品売上高	+259億円	+2億円	1EUR	163.89円	160.00円	165.47円	165.29円	160.00円
その他の売上収益	+88億円	△1億円	1USD	136.39円	146.30円	146.36円	148.19円	148.00円
売上原価	△27億円	+0億円						
上記以外*1	△16億円	△13億円						
営業利益	+305億円	△11億円						

*1 研究開発費、販売費及び一般管理費、その他の営業収益（費用）の合計
*2 営業利益までの科目に含まれる外貨建取引に使用した計上レートを加重平均したもの
*3 決算期間中の市場為替レートを平均したもの

30

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



これは為替の影響です。

去年と比べると、スイスフランで 11 円程度の円安が進んでおります。実績レートでの比較が一番左の数字ですが、売上で 347 億円、利益で 305 億円、去年の為替レートを前提とするとプラスがあったということでございます。

あと、今年は既に為替予約を去年の段階で 8 割方終わっていますので、ある程度、想定レートを置いて予算計上しておりますが、若干、為替予約していない部分でブレが出ています。そういった部分で想定レートとの差ということで、ここに書いてあるように、売上で 2 億円、利益でマイナス 11 億円が出たということでございます。

2025年第3四半期 連結決算(Core)概要

財政状態9月末 前期末比



【億円】

資産合計	22,084	△248	21,836
負債合計	△3,069	+134	△2,935
	19,015	純資産合計 △114	18,901
純営業資産 (NOA) ^{*1}	9,476	純運転資本 +200	4,687
	4,989	長期 純営業資産 +434	5,423
	9,963	ネット現金 △1,139	8,824
	△425	+392 その他の 営業外純資産 ^{*2}	△33
株主持分比率	2024年 12月末 86.1%	+0.5pts	2025年 9月末 86.6%

- 純運転資本の増加
営業債権の増加および設備未払金の減少等
- 長期営業資産の増加
以下への投資、および無形資産の増加等
✓ 宇都宮工場におけるバイオ原薬製造棟(UT3)
✓ 宇都宮工場における注射剤棟 (UTA)
- ネット現金の減少
次ページ参照
- その他の営業外純資産の増加
主に未払法人所得税が減少

^{*1} NOA : Net Operating Assets

^{*2} 例：繰延税金資産、未払法人所得税等

31

これはバランスシートです。

ネット現金が今回 1,139 億円減少しております。これは税金の支払いが 8 月にあって、あとは配当、特別配当を含めて今回 8 月に出了。こういった影響を受け、現預金が減少しています。

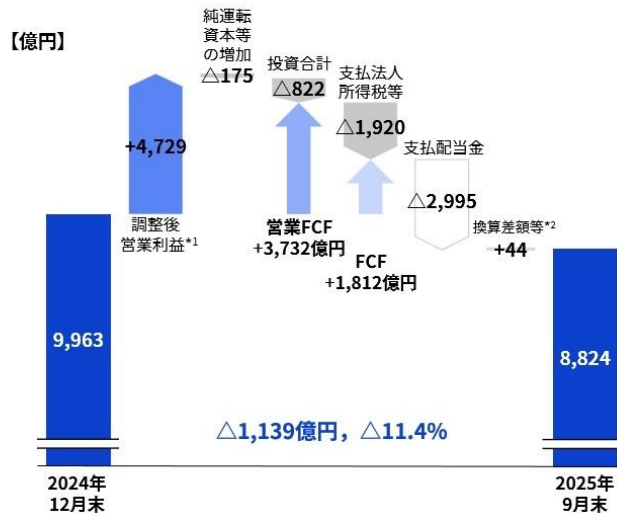
総資産もこれに伴って 248 億円ほど減少しておりますので、これに対して今、純資産が 1 兆 8,901 億円で、株主持分比率、純資産比率自体は逆に 12 月末と比べて約 0.5 ポイント上がった状況でございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ネット現金 前期末からの増減



*1 Non-Core含む (IFRS実績)

*2 「換算差額等」 = 「自己株式の減少 (増加)」 + 「ネット現金の換算差額 (*3) 等」

*3 在外子会社の財務諸表の換算レート (ネット現金: 期末日レート / FCF: 期中平均レート) の違いから発生 (IAS第7号・IAS第21号を参考に、当社が定義)

■ 調整後営業利益 ^{*1}	+4,729 億円
営業利益 ^{*1}	+4,298 億円
減価償却費、償却費および減損損失 ^{*1}	+360 億円
■ 純運転資本等の増加	△175 億円
■ 投資合計	△822 億円
有形固定資産の取得による支出	△589 億円
リース負債の支払いによる支出	△59 億円
無形資産の取得による支出	△173 億円
営業フリー・キャッシュ・フロー	+3,732 億円
■ 支払法人所得税等	△1,920 億円
支払法人所得税	△1,907 億円
フリー・キャッシュ・フロー	+1,812 億円
■ 支払配当金	△2,995 億円
■ 換算差額等 ^{*2}	+44 億円

32

現金、先ほど申し上げたように 1,139 億円減少したということですが、営業フリー・キャッシュ・フローは 3,732 億円ございましたが、支払法人税があり、あと配当金があり、こういったことで 1,139 億円減少した形になっているということでございます。

損益 1-9月 Non-Core調整

【億円】	IFRS実績	Non-Core調整		Core実績
		無形資産	その他	
売上収益	9,116			9,116
製商品売上高	7,946			7,946
その他の売上収益	1,171			1,171
売上原価	△2,761	+9	+119	△2,633
研究開発費	△1,352	+3	+61	△1,288
販売費及び一般管理費	△795		+102	△694
その他の営業収益 (費用)	90		△86	4
営業利益	4,298	+12	+195	4,505
金融収支等	△19			△19
法人所得税	△1,223	△4	△60	△1,286
四半期利益	3,056	+8	+136	3,200
EPS (円)	185.70			194.44

Non-Core調整

営業利益影響内訳

■ 無形資産	
償却費	+11億円
減損損失	+1億円
■ その他	
事業再構築費用	+102億円
開発一括中止に関わる費用等	+178億円
資産売却益を含む事業所再編費用等	△84億円

33

これは Non-Core の調整という表でございます。

毎回お見せしていますが、国際会計基準実績と Core 実績、今までご説明してきたのは Core 実績ですが、これとの差異です。その調整表でございます。

通常どおり、導入したインライセンスの無形資産の償却費、減損に加えて、今 ERP の入れ替え作業を行っています。そういった事業再構築費用と、第 2 四半期にアナウンスしました開発品の一括中止に伴って、資産の減損等が発生しております。これは治験薬の在庫というか固定資産が減損の対象になったり、開発中止に伴って外部の CRO に対して、これを継続するところの費用みたいなものが入っております。

資産売却益が 84 億円、これは逆に今年の 1 月に発生した鎌倉の土地の売却に伴うものでございます。

2025年第3四半期 連結決算(Core)概要

自社グローバル品の状況



【億円】

製品名	2025年3Q実績	前年同期比	通期予想	コメント
ヘムライブラ	国内：447	+7.7%	594	・国内：引き続き国内シェアが順調に拡大し、前同比で堅調に売上増加 ・海外：すべての地域で現地売上が拡大。通期輸出見通しを過達の見込み ・利便性と蓄積された臨床エビデンスにより、世界中の患者さんへ価値提供
	輸出：2,546	+0.4%	3,242	
	海外現地：3,251mCHF	+13%	-	
アクトテムラ	国内：367	+5.5%	500	・国内：関節リウマチで引き続き新規処方獲得。他の適応も浸透が進む ・海外：EUで現地売上が減少も、Internationalは順調に推移。通期輸出見通しを過達の見込み ・IL-6阻害剤の先発薬として確立されたエビデンスにより患者さんへ価値提供
	輸出：1,190	+27.1%	1,276	
	海外現地：1,662mCHF	+1%	-	
アレセンサ	国内：243	+8.5%	340	・国内：21年以降、1次治療に競合品が参入したが、高いシェアを維持 ・海外：米国、Internationalで現地売上が拡大。通期輸出見通しに変更なし ・進行NSCLCに加えて、早期NSCLCではFICのALK阻害剤として患者さんへ価値提供
	輸出：460	△1.5%	670	
	海外現地：1,038mCHF	+8%	-	
インスプリング	国内：209	+17.4%	260	・国内：24年の薬価改定 ¹⁾ が大きいものの、切り替えが順調に進み、前同比で堅調に売上増加 ・海外：すべての地域で現地売上が拡大。輸出も概ね想定通り推移 ・ステロイド回避を望む患者さんに対して利便性の高い治療法を提供
	輸出：86	△2.3%	126	
	海外現地：149mCHF	+33%	-	
ピアスカイ	国内：48	+269.2%	44	・国内：皮下投与の利便性・滞在時間の減少等が患者さんと医療現場で評価され好調に浸透 ・海外：EUで市場導入が進む。世界各国での市場浸透を図っていく ・利便性の向上とC5遺伝子多型を含む患者さんに対する幅広い治療機会の提供
	輸出：-	- %	-	
	海外現地：5mCHF	- %	-	

表中の「輸出」は、中外テリトリーの台湾現地売上を含む。「海外現地」は、ロシュによる海外現地売上で、前年同期比の増減は、為替一定ベース

NSCLC：非小細胞肺癌、FIC：First in Class

¹⁾2024年4月 市場拡大再算定 △25.0%

【ヘムライブラ】国内血友病A患者シェア推移

2024年3Q	2024年4Q	2025年1Q	2025年2Q	2025年3Q
34.9%	35.3%	36.2%	37.0%	37.7%

34

次のページ以降は毎回同じでございますけれども、自社グローバル品の状況であります。

これは、国内、輸出、ロシュ社の現地売りの第 3 クォーター時点での現状、それに対して定性的なコメントなども加えさせていただいております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com



主な投資等の現状と当面の計画

		~2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030~	投資予定額		期間*	
									総額	既投資額		
製造系	宇都宮工場	UT3：中後期治験/初期商用バイオ原薬製造							374億円	326億円	2023年	2026年
	宇都宮工場	UTA：初期商用生産向け無菌注射剤製造							190億円	161億円	2023年	2025年
	浮間工場	UK3（改造工事）：バイオ原薬製造							203億円	58億円	2024年	2027年
研究開発系	CPR	研究機能拡充に伴う施設移転							60百万SGD	17百万SGD	2024年	2026年
	IFReC	IFReCへの包括連携契約に基づく資金提供							100億円	85億円	2017年	2027年
	浮間事業所	UKX：低・中分子およびバイオ医薬品の製法開発機能強化							800億円	8億円	2026年	2028年
環境	環境投資**	中期環境目標2030達成に向けた設備更新等							1,359億円 (試算総額)	65億円	2022年	2032年

*設備投資は着手年から完成予定年を表す

**表内に記載されている投資案件の一部を含む

35

これは今、承認された設備投資です。その状況でございます。

前回からと大きく変化はございません。

以上でございます。どうもありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

質疑応答

若尾 [Q]：JP モルガンの若尾です。ありがとうございます。二つあります。

一つ目が、FILSPARI の買収について教えてください。なぜ IgAN の領域の製品を買収したのか、もう少し詳しく教えていただきたいです。IgAN の市場が魅力的なのか、そもそもこの製品のプロファイルなどがリーズナブルで良かったのか、腎領域を強化したいのか、この辺を知りたいです。あと、今後のロシュ品以外での導入の可能性があると考えたほうがよろしいですか。もしそうならば、なぜロシュ品以外の導入を検討し始めたのか、その変化についても知りたいです。

奥田 [A]：若尾さん、質問ありがとうございます。奥田でございます。大きいところを私からまず回答差し上げたいと思います。レナリスの sparsentan の獲得についての質問だと理解いたしました。

今回、われわれは、ここのスライドにありますように、共有価値創造に向けての資本配分ということで、三つの方針を立てております。大きくは、革新的な医薬品の創出と提供で、これは中外が得意とするところです。それから価値創造エンジンの拡大で、これは特に研究開発力の強化ということになります。そして、その他の投資機会。それに加えて、基本であります株主還元と。

この中で、革新的な医薬品の提供もわれわれの資本を配分していくべきだと。中外製薬はご存じのように、日本における開発、それからマーケティング、販売は非常に強くなってきております。実際に販促会社レベルで見ても、日本でナンバーワンという会社になってきて、この力を生かすべく、今回のレナリス社の買収、すなわち sparsentan の獲得となったわけです。

腎領域につきましては、以前より強い領域ではありますし、このスライドに示しましたように、開発中の医薬品、開発品ガザイバ、ピアスカイ、そして IgA 腎症そのものでも sefaxersen という候補品もありまして、そこを腎領域のパイプラインを増やすという意味もございます。

そういうわけで、今回、資本配分の有効活用ということで、sparsentan を導入したことになります。

二つ目の若尾さんの質問は、今後もこういうことはあり得るのかということなのですが、もちろん機会があればやっていきたいと考えています。われわれの強みである研究開発力、そしてわれわれの強みである日本での開発、販売、マーケティング力を生かして、革新的な医薬品を提供していきたいと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

若尾 [Q]：これが、たまたまという言い方はあれですけども、これがうまくはまったので導入したということであって、積極的にこういった製品を導入していこうというわけではないと理解したほうがよろしいですか。

奥田 [A]：定常的にこういうオポチュニティがないかあるかは、探索をしております。今回非常に魅力的な開発品がありましたし、われわれの戦略にフィットするということで、このレナリスの買収、sparsentan の獲得となりました。

若尾 [Q]：分かりました。

ちなみに、この IgAN の領域ですと、抗 APRIL 抗体が非常に今ホットだと思うんですけども、その導入は検討されていないんですか。

草野 [A]：若尾さん、質問ありがとうございます。

確かに抗 APRIL 抗体と IgA 腎症におきましては、非常にホットな領域かと思っております。ただ、今回導入いたしました sparsentan も、非常に魅力的な薬剤でございます。特にレニン-アンジオテンシン系阻害に加えて、エンドセリン経路を同時に阻害できるということで、二重拮抗作用を持っておりますので、ファーストラインから入っていけるということで、われわれは、実は今、ご存じのとおり、IgA 腎症に対する治療薬としては sefaxersen を持っております。ですので、非常にシナジー効果があるだろうということで、APRIL でもいろいろと当然いいものがあって、画期的なものであるならば、いろいろなものを検討していきたいと。そんな中で sparsentan がちょうど、われわれのところに当てはまったといったところになります。

若尾 [Q]：分かりました。

二つ目としてもう 1 個教えてください。orforglipron についてですが、リリーとどういうコミュニケーションをとられているか知りたいです。2026 年には肥満で少なくとも承認、上市が見込まれると思うんですけども、リリーから承認タイミングとか、来年の売上規模とか、そういったことに関する情報提供はあるのでしょうか。多分来期から寄与してくると思いますから、来期の御社の業績をつくる上でリリーとどういったコミュニケーションをとっているか知りたいです。

奥田 [A]：若尾さん、質問ありがとうございます。

orforglipron につきましては、リリーから公表されているとおり、肥満症につきましては 25 年内の承認申請、そして糖尿病につきましては来年 26 年の承認申請が公表されております。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

通常考えると、そこから審査があって、承認、そして発売という流れになると思いますので、われわれも来年、いつかのタイミングで承認がされて、発売がされてということを期待しています。

若尾 [Q]：御社は、期初計画に orforglipron は織り込まれる可能性は高いですか。承認されていないと織り込まないですか。

奥田 [M]：これにつきましては、谷口から回答差し上げます。

谷口 [A]：ご質問ありがとうございました。

まだ来年の予算は1月の決算発表のときにお話しする内容で、状況を精査しております。ただ、承認の蓋然性が高い場合には、社内としてその数字を織り込む可能性はあるとご理解いただいてよろしいかと思います。

若尾 [Q]：分かりました。その辺の承認のタイミングとか、申請の時期とか、細かい話はリリーから常に情報をもらっていると理解していいんですね。

谷口 [A]：リリーさんとのコミュニケーションチャンネルはもちろんありますが、こういった内容についてお話をさせていただいているかは、非開示とさせていただきたいと思います。

若尾 [M]：分かりました。ありがとうございます。以上です。

村岡 [Q]：ありがとうございます。モルガン・スタンレー、村岡です。

今の若尾さんの、来年は、の話の続きですが、いつもサードクォーターは、御社の場合は恒例気味になっているのですが、来年の考え方です。今、orforglipron は蓋然性が高ければ、来年のガイドンスに入れるよというのを谷口さんはおっしゃってくださいましたが、NEMLUVIO も調子がいいですし、マイナス要素はアクテムラぐらいしか見当たらないので、来年は今年に比べて増益になって当たり前だと思っているのですが、来年の考え方、少し可能な範囲で共有していただだけませんかしょうか。

奥田 [A]：村岡さん、質問ありがとうございます。私から少しお答えしようと思います。

なかなか、来年のことを精密に読むことは難しい状況でございます。もちろん今、話に出ました orforglipron もあります。それから、アクテムラのバイオンミラーによる侵食が始まっておりますが、このスピードについてはなかなか読みが難しい状況です。

一方、今も指摘されました NEMLUVIO は米国を中心として、われわれの想定以上のローンチ後の売上好調が見られているということで、全体を合わせますと、重ねて言いますが、現時点の見込み

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasias.com



ですが、若干の売上の今期より上回る形でいくのではないかという想定をしているところでございます。

村岡 [Q]：ありがとうございます。Core OP に関して言えることはありますでしょうか。

奥田 [A]：それについては、言えるところは今の時点ではございません。来年の決算発表のときまでお待ちくださいませ。

村岡 [Q]：分かりました。

あと、来年の部分で、配当は通常の 45%に戻ると考えるのが当然と思っていたほうがよろしいでしょうか。

奥田 [M]：配当については、谷口からお答えしましょう。

谷口 [A]：村岡さん、どうもありがとうございました。

今回、特別配当を、これは 100 周年記念ということでもございましたので、基本的には通常の配当ポリシーに基づいて配当をお支払いするパターンが想定されると思います。

よろしいでしょうか。

村岡 [Q]：分かりました。ありがとうございます。

次を 2 問目にさせていただきます。GYM の話ですが、昨日のロシュのカンファレンスコールの聞き方を僕が間違えていたらあれですが、来年の ADA でいろいろ出すよと。GYM の肥満症も込みと私には聞こえたのですが、GLP-1 中心にデータを出すと。

GYM の肥満症は ADA にはさすがに間に合わなくて、EASD ぐらいかなと、Phase II の併用試験と思っているのですが、その辺りどう考えればいいのか、時間軸等の考え方を教えてください。

草野 [A]：村岡さん、質問ありがとうございます。

GYM の Phase II でございますが、肥満症を対象としている試験でございます。ロシュ社、症例の登録を終了いたしました。来年 2026 年の Readout を公表してございます。学会に関しましては、今のところ公表はしていないといったところになります。

村岡 [M]：分かりました。ありがとうございます。以上です。

山口 [Q]：こんにちは。シティの山口です。ありがとうございます。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



ヘムライブラの輸出と末端の売りに関して、昨日のロシュの数字ですと、Q2 と Q3 でアメリカではパターンが違ったり、International も Q2 と Q3 でちょっと落ちたりというパターンがあると思います。一方で、御社の場合も Q2 と Q3 で出荷のずれ等々がございましたが、この両方のパターンを見たときに Q4 も上回るということですが、ロシュの売りと中外の輸出のパターンのずれみたいなものと、来期は low-single digit でヘムライブラはいけまっせとロシュがおっしゃっていたような気がするんですけども、来期はそういうずれ的なものがあるのかないのか。いつも同じような質問で申し訳ないんですけども、その辺をもう 1 回ご解説いただけますでしょうか。

谷口 [A] : それでは、谷口からご説明させていただきます。どうもご質問ありがとうございます。

これまでの繰り返しになりますが、ロシュの現地売りと当社の輸出は、必ずしもパラレルに全部動くということではございません。

そういう中で、ただ、われわれは輸出に関しては、オーダーフォーキャストをロシュからいただいております。その中で、当面、6 カ月程度はほぼコミットメントの数字でございます。そういったものから第 4 クォーターについては、先ほど申し上げたように、かなり去年と比べると上振れをするのかなと。通期予想についても、先ほど申し上げたように、3,186 億円から、前回もお話ししている 100 億円以上上回るのではないかなと。そんな見立てを今、今期に関してはしております。

来期ですけども、まだ精査中というのが現状でございますが、昨日のロシュのコールで low-single digit と言われたということですけども、ある程度そういう流れで、ヘムライブラも今期に対して若干プラスが出るんじゃないかなと想定しております。

山口 [Q] : ありがとうございます。

アクテムラは、同じような質問になってしまうんですけども、おっしゃっていただいたとおり、200 億円、今期は上振れるので。

谷口 [A] : 今期は 1,152 億円ということで、通期予想、ほとんど近い数字になってきましたので、第 4 クォーターの確定している輸出の数字を入れると、200 億円という数字が出てくるという話でございます。

来年については、バイオシミラーの浸透が本当にどこまで進むかということ次第ですが、さすがに今年の数字よりかは下がっていくとは思いますが、そこら辺はまだ精査中ございまして、また 1 月の決算発表のときに、もうちょっと具体的な数字をお話しできればと思います。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

よろしいでしょうか。

山口 [Q]：今のところ、基本マイルドという感覚はまだ変わっていないですか。

谷口 [M]：ごめんなさい、基本マイルドとおっしゃいますのは。

山口 [Q]：マイルドというのは、もともと落ちる想定との比較ではあまり落ちていないという流れが続いているかと思うんですけども。

谷口 [A]：現時点、今日の時点、年内はそうかもしれませんね。ただ、来年という、来年も幅がございまして、来年の今ぐらいにどうなっているかは、マイルドなのかビターなのか分かりませんが、そんなふうに考えております。

山口 [M]：ありがとうございます。以上です。

和田 [Q]：ありがとうございます。SMBC 日興証券、和田です。よろしくお願いします。

エンスプリングの TED のお話をお伺いしたいです。質問としては、承認されている薬剤としてはテッペーザがあると思うんですけども、それに対する差別化のポイントがどう見えているかをお伺いしたいのと、1 勝 1 敗みたいな形になっているんですけども、これで申請がどういった形になりそうかといったところの、今、想定されている一番可能性の高いシナリオをお伺いできますでしょうか。

草野 [A]：和田さん、質問ありがとうございます。草野からお答えさせていただきます。

まずテッペーザとの関係ですけども、あくまでも同じ試験の中でテッペーザと比較、検討しているわけではないので、正確には今回比較はできないんですけども、まず今回の結果を見てみますと、安全性に関しましては、エンスプリングは大変良好な安全性プロファイルを示してございまして、IGF-1R 阻害剤でよく見られるような聴力低下、あるいは高血糖、脱毛、筋けいれんなどといった有害事象は認められてございませんでした。

ただ、有効性に関しましては、ご存じのとおり、眼球突出の改善については、少しテッペーザで高い有効性が認められているのかなと思っております。

ただ一方で、疾患の活動性の指標がありまして、臨床活動性スコアというものがあるのですが、こちらの改善に関しましては、ほとんどテッペーザと同等の有効性が示されていると考えております。

サポート

日本

050-5212-7790

フリーダイヤル

0120-966-744

メールアドレス support@scriptsasia.com

例えば、難聴障害のある患者さん、糖尿病の患者さん、あるいは炎症性の腸疾患のある患者さんがおられたり、副作用で投与を中止される、または再発される患者さんのことを考えますと、IGF-1R 阻害剤とは異なるクラスの薬剤が求められているんだろうなと思っています。

加えて、冒頭申しましたけれども、エンスプリングが4週に1回の皮下投与ということを考えますと、エンスプリングの利便性は高いのかなと考えてございます。

こういった観点から、データをしっかりと吟味いたしまして、当局とこれからしっかりと相談していきたいと考えてございます。

和田 [Q]：ありがとうございます。クリアです。

二つ目、sparsentan の導入のお話もお伺いしたいんですけれども、これの申請スケジュールについてお伺いしたいです。レナリスのほうでは、韓国とかアジアに関しては、既に Phase III を終わらせていると思っています。日本はブリッジングでこれから申請と記載されていると思うんですけれども、まとめて申請という形になるんでしょうか。早く申請できるところから承認を取っていくようなイメージになるんでしょうか。いかがでしょうか。

草野 [A]：これも草野からお答えさせていただきます。

申請の時期に関しましては、日本は来年申請という形で考えてございます。その他の国に関しましては、これから精査していきたいと考えてございます。

和田 [Q]：分かりました。ありがとうございます。

日本の Phase III というのは、ブリッジングで、少数例でいけるというお見立てで正しいですか。

草野 [A]：はい。こちらは公表もされてございますが、30 例程度の試験でございまして、ブリッジングのストラテジーで試験を行ってございます。

和田 [M]：分かりました。ありがとうございます。クリアです。以上です。

酒井 [Q]：ありがとうございます。UBS の酒井です。

Rani Therapeutics は経口ということですが、それはニアリーイコール、多分、抗体の経口化を考えていらっしゃると思うのですが、どのレベルからこの技術を御社の中で創薬として結びつけていくのか。

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

契約内容を拝見しますと、結構、末広りのマイルストーンと言いますか、金額が大きくなるような契約になっていますので、それなりに大きな抗体、新製品が大型化すれば、御社はロイヤルティも払うというお話のようですけれども、その辺の期待値を含めてお話をお聞かせ願えないでしょうか。これが最初の質問です。

奥田 [A]：奥田でございます。酒井さん、質問ありがとうございます。Rani Therapeutics についてはどのレベル感という今ご質問で、ちょっとざっくり答えさせていただきます。

この技術は、なかなか経口投与ができない医薬品、特に抗体医薬品をカプセルの中に入れて、消化管から吸収させることができるデバイスでございます。このデバイスにつきましては、中外製薬は、ご存じのように、抗体エンジニアリング技術が非常に得意でございますので、そここのマッチングがいいということで、この技術を導入しようということになりました。

今回の契約の中では、Rani の技術に関しましては既に臨床試験で、実際に薬剤が消化管吸収をされて血中に入ることが証明されております。ですから、われわれの抗体を開発する中で、特に経口投与が求められるような疾患においては、この技術を使って開発を進めていきたいと考えています。

今回、全体の金額、トータル、成功した場合の額が非常に大きくなっておりますが、最初の一つに加えて、実は五つのプロジェクトまでの権利を持っておりまして、そこが全部成功しますと、かなり大きな金額になるとご理解いただければと思います。

酒井 [Q]：その五つのプロジェクトのうち、最初にパイプラインに上がってくるもの、そのタイミングはいつ頃になりそうですか。

奥田 [A]：タイミングについてはなかなかお答えできるような状況にはございませんで、われわれの抗体、どれをどうこの技術を使っていくか等々については開示しておりませんので、ご了承くださいませ。

酒井 [Q]：分かりました。いずれ出てくるということですね。

奥田 [A]：そうですね。われわれの中のパイプラインに入ってくると開示をするということになってくると思いますので、少々お待ちください。

酒井 [Q]：分かりました。

あと一つ、すみません、決算と全然関係ないんですけれども、がんゲノム、FoundationOne の現状がどうなっているのか。なかなか伸び悩みという状況なのか、なかなか診断されても結局治療薬

サポート

日本 050-5212-7790

フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



が見つからないということで、採用が進んでいないのか。あとは、薬価と言いますか、コストの問題なのか。この辺含めて、もう1度整理させていただきたいのですが、お願いいたします。

奥田 [A] : 酒井さん、質問ありがとうございます。

今、実績で言いますと、今期サードクォーターまでで60億円の売上を計上しております。F1CDxに加えまして、F1のLiquidを展開いたしまして、かなりニーズとしては広がってきています。

さらに、最近ですが、エキスパートパネルを実施できる施設が増えています。現実38施設が増えて、全国で今年の10月1日現在で83施設になりました。このエキスパートパネルの実施がボトルネックになっていた部分もありますので、今後、がんゲノム、FoundationOne CDxとF1 LiquidのCDxについては、やや成長がもう少し期待できると今考えています。

酒井 [M] : 分かりました。どうもありがとうございます。

豆ヶ野 [Q] : BofA証券の豆ヶ野です。お世話になります。よろしくお願いします。

私もGYMについて教えていただきたいです。今回SMAとFSHDのデータReadoutが26年の予定ということで、確かSMAに関してはもともと昨年の開示予定だったと思うんですけども、それが今年になって、来年になっているという状況かと思います。ここに関して何かコメントをいただけることがあったら、コメントをいただけますでしょうか。よろしくお願いします。

草野 [A] : 豆ヶ野さん、GYMの質問をありがとうございます。草野からお答えさせていただきます。

以前、昨年の段階で公表という話があったときは、実際、試験のエントリーがかなり遅れてございまして、今年中に何とかReadoutという形で、これまでご公表させていただきました。

今回ロシュ社から話が出ておりますのは、現状GYM329、非常に多くの競合品がある中、適切なタイミング、ならびに適切な学会、あるいは論文等を勘案いたしまして、来年上期の発表がベストだろうという形で、今回、少し変更させていただき、来年上期の発表という形でお示しさせていただきました。

豆ヶ野 [M] : 分かりました。ありがとうございます。

お問い合わせ先



広報IR部

報道関係者の皆様：メディアリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0881
E-mail : pr@chugai-pharm.co.jp
担当 : 佐藤、香西、平野、宮澤、和泉

投資家の皆様：インベスターリレーションズグループ

Tel : 03-3273-0554
E-mail : ir@chugai-pharm.co.jp
担当 : 櫻井、島村、山田、池ヶ谷、大塚

36

[了]

脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用をしてはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com